

つながり、知的な深まりを楽しむ子どもが育つ授業づくり（3年次）

～子どもが友だちの表現に「価値」を見出すことができるようにするための教師の働きかけを通して～

国語科における、つながり、知的な深まりを楽しむ子どもが育つ授業について

国語科は、言葉を学習対象とする教科である。それは教科書の文章であったり、授業中の自分や友だちの発言も含まれる。その言葉を何となく聞いていたとしても、解釈し、理解しようとしていない場合がある。それは解決したい目的がないからである。それどころか、友だちや教師の話を自分が受け取った意味で置き換えに終始することもある。そのために、同じ言葉が自分と友達間で行き交っているのにもかかわらず、互いが誤解をしたり、うまく伝わらなかつたりしてトラブルが起こることもある。だからこそ、国語科は“ことば”が流れていると思うのではなく、言葉としてキャッチし、その意味を正確に理解したり、発信したりする力を身に着けさせるという役割を担う教科だと考えている。

「主体的・対話的で深い学び」という観点での授業の見直しが言われている。授業改善の3つの観点と本校の研究テーマ「つながり、知的な深まり」は関連したものだと捉えている。とくに、「つながり」と「主体的・対話的」とには強い関連がある。子どもたちは日々、国語の授業において、発表したり、ノートに書いたりと言葉を用いて活動している。その活動が、子ども自身の「解決したい・～できるようになりたい」という主体的な活動であるならば、同じ教室で活動している友だちの姿に関心をもつのではないか。また、友だちと意見交換をして、自分の考えを生産しようとするかもしれない。このことが対話的といえるのであろう。もちろん、文科省のいうように、学習材を見直すことも、学習材と主体的・対話的にかかわろうとするのだということができるのであろう。

ただ、主体的な意識をもつことだけで、友達の姿に関心を持つ・学習材を見直すことにそのまま向かうとは言い切れない。なぜなら、子ども自身に自信があって、友達の事なんてかまう暇もなく、自分の道を突き進んでいる場合や、自分の行動がよい、悪いというモニタリングの力が不十分で、友達に目が向かない場合があるからである。ではどうするのか。私は、2つの役割を教師が担う必要があると考える。それは、子どもが自信をもてない状況（困り感を抱く状況）にすること、そして、モニタリングを働かせる姿を評価することである。

では「国語科における、つながり、知的な深まりを楽しむ子どもが育つ授業」とは、どのような子どもの姿が見られる授業だとイメージするのか。それは、メタ認知を働かせて言葉と向き合うことができる姿である。メタ認知を働かせるということは、メタ認知行動（モニタリングとコントロール）とメタ認知的知識（方略）を総合的に働かせているということであり、言いかえると、問題解決の過程において、自分の遂行状況を見取り、より良い方向に進めている姿と押さえる。例えば、学習対象となる文章の意味を理解する際に、自分の解釈だけではなく、周りの友だちの解釈も聞こうとするモニタリングとコントロールをおこなったり、友だちの解釈を正確に聞き取ろうとメモをするといった方略を用いたりする姿である。

こうしたメタ認知を働かせていくことにより、子どもは友だちの考えが分かった、自分の考えが伝わったという達成感や、友だちと話し合っ解決する一体感、連帯感を感じることができる。言いかえるならば、国語科の見方・考え方を働かせながら、知的な深まりを感じている姿であり、それらは必ず心地よい思いを子どもにもたらせるようになる。この言葉の有用性、価値を感じながら言葉を理解し、発信することを知的な深まりを楽しむ姿と押さえたのである。

1. 子どもを「共通の土台」にのせる働きかけ

1年生

○チロの行動・発言に焦点を当てる。

1年生は、学習する場面を読み、中心人物のチロの行動や心情を具体的に想像する学習をおこなう。本時で扱う第一場面にはチロ以外にも、お兄さん、お姉さん、おばあちゃんの手紙が出てくる。そこで、チロに焦点を当てるために、チロの行動、発言だけを選ぶ活動を取り入れる。この活動は、子ども中心の活動としてできると思われる。司会役の子どもを中心として、チロの行動を選ぶことができるのではと考えている。

もし、正しく選ぶことができない場合は、「一枚、違うのが入っている」「すべてできた、すごい！」といった評価の声をかけるようにする。

○役割を入れた動作化を取り入れる

本学級の1年生はこれまでも物語の学習では、動作化を取り入れており、とても楽しく活動できている。読み取った場面の様子を想像するのに、低学年の子どもにとって、動作化は有効な表現方法である。ここにチロ役、音読役、観察役を入れることで、どのように動作をしたかを見ることができるようになる。必要に応じて、タブレットでの録画もおこない、画面でその様子を再現できるようにすることも取り組みたい。

2年生

○第2場面の出来事の順にカードを並べる。

2年生は、かえるくんががまくんへの手紙を書き、かたつむりくんへ頼む場面をもとに、自分の感想をもつ学習をおこなう。感想を持つためには、かえるくんの行動を話の展開の順に正しく読み取ることが必要となる。そこで、本文から、かえるくんの行動をカードにしたものを準備し、出来事の順に並べさせる。この活動は、子ども中心の活動としてできると思われる。司会役の子どもを中心として、チロの行動を選ぶことができるのではと考えている。

もし、正しく選ぶことができない場合は、「一枚、違うのが入っている」「すべてできた、すごい！」といった評価の声をかけるようにする。

○「感心した行動」を名前を書いたシールで選ばせる。

自分の感想をもつことができるようにするために、「感心した行動」にシールを貼って選ぶようにさせる。その際、シールに名前をつけておき、誰がその文に感心したのかが分かるようにする。

2. 子どもが友だちの表現に「価値」を見出すことができるための働きかけ

1年

○言い返すチロの行動についての想像に揺さぶりの問いを投げかける。

言い返すチロの動作に焦点を当てる。困った様子で、動作をする姿を取りあげて、「言い返したのなら困ってないのでは？」とゆさぶりの投げかけをする。それに対して、子どもは、「あわてていいかえました」「ほんとうはともしんぱいでした」という言葉を根拠に動作を説明する姿を期待している。そうして、説明する友だちの発言を聞き、チロの心配する行動に気づくようになるのではと考えている。

また、子どもの様子に応じて

○「**あわてて**いいかえました。」 △「いいかえました。」

○「ほんとうは、**とても**しんぱいでした。」 △「ほんとうは、しんぱいでした。」

とのそれぞれを動作化させ、2つを比べさせることで、チロが本当に困っていたことを友だちの姿から想像できるようにする。

2年

○感心したかえるくんの行動を選んだことに揺さぶりの問いを投げかける。

子どもに、感心したかえるくんの行動にシールを貼らせる。この時、特定の行動にシールが集まっている場合は、「その行動がそんなに感心するものなの？誰でもするのでは？」と揺さぶる発問をする。また、かたつむりくんの手紙を頼んだことにシールがない場合は、「この行動ってすごいと去年の2年生が言っていたのだけれど」と揺さぶる発問をする。そうして、揺さぶられた後、子ども中心で、感心したという理由を出させて記録させながら、友達発言を受けとめる姿を評価するように心がける。

第1・2学年E組 国語科学習案（複式学級）

令和 3年12月10日（金） 第3校時場所 1・2E教室
授業者 田中 元康

1. 単元名 【1年生】 こえに出してよもう 「おとうとねずみチロ」（東京書籍一下）
【2年生】 読んだかんそうをつたえ合おう 「お手紙」（東京書籍二下）

2. 1年生の単元のねらい・学習材について

本単元の重点指導事項は、学習指導要領における〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」の「文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想を持っている」C(1)オ（精査・解釈）である。そこで、物語を読んで正しく出来事を捉える（構造と内容の把握）の活動と文章を読んだ動作化（表情も含めて）の活動を組み合わせた授業展開を構想する。そして「お話を読み、内容や感想を伝え合ったり、演じたりするC(2)イ」という言語活動を設定した。これは、登場人物の行動や言葉を読み取り、動作で表現する中で、なぜその動作をおこなったかを考え、交流することで、表現を元に作品の世界を想像するという活動である。

本学習材は、おとうとねずみのチロが、おばあさんからチョコキをもらえないのかもしれないと不安に思うことから話がスタートする。途中、岡を走ったり、高い木に登って声をあげたりとチロは移動していく。それは不安な気持ちがあるからである。そうした行動が不安な気持ちに上におこなわれていることを動作化を通じて表現できるかを見取っていく。やがて、チョコキは届き、チロは喜ぶ。そして、また木に登り、おばあさんにお礼の声をあげる。この時は、喜びの気持ちを想像できているか、動作化をする姿、表情から見取る。このように、中心人物の心情が捉えやすい展開となっており、1年生が、チロの思いを想像するのに適した学習材といえる。

3. 1年生の単元の目標

- 身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすることができる。〔知識及び技能〕(1)オ
- 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ
- 「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)オ
- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

4. 1年生の単元で取り上げる言語活動

お話を読み、内容や感想を伝え合ったり、演じたりする。（思考力、判断力、表現力等 C(2)イ）

5. 1年生の単元の評価規準

知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。(1)オ	①「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。C(1)エ ②「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。A(1)オ	①これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かして学習の見通しをもち、積極的に、人物の行動を具体的に想像し、お話の内容や感想を伝え合ったり演じたりしようとしている。

6. 1年生の単元と評価の計画（全11時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
一	1 ・ 2	○言葉の力から単元で学ぶべき事柄を確認する。 ○全文を読み、中心人物を確認する。	・学習のねらいと言語活動の内容を具体的に示し、学習の見通しをもつことができるようにする。 ・教師が範読や解説をおこない、読むことができない漢字や意味の分からない語句がないようにする。	
	3 本 時 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7	○物語の内容の大体をとらえて、1～4場面のチロの行動を読み、心情を想像する。 1場面 おばあさんの手紙が届く。（本時） 2場面 おばあさんへ声を届けようとする。 3場面 おばあさんから小包が届く。 4場面 おばあさんにお礼を言う。	・誰の行動かを意識して読むように指導する。 ・出来事の順番を確認できるような文章の提示をする。 ・各場面でチロの動きを動作化するようにすすめる。 ・心情を想像できる言葉がある場合とない場合とで動作が変わるかを考えさせる。	[思考・判断・表現①] 発言・行動観察 ・チロの動作化で見られる動きや表情の確認。
	8 ・ 9 ・ 10	○チロの気持ちを考え、物語を音読する。 ○感想を伝える。	・全体を通じて、チロの行動の移り変わり、心情の変化が表れるように、動作化も取り入れた音読をするように場の設定をする。 ・「すごいと思ったチロの行動」「おもしろいと思ったチロの行動」と話題を設定し、感想の話し合いがつながるようにする。	[知識・技能①] 行動観察 ・動作化取り入れた音読を見て、感想を伝える際、チロの気持ちを表す言葉を用いているかの確認。 [主体的に学習に取り組む態度①] ノート ・チロの行動や心情を読んで、出来事や感想を友だちに伝えることができたかの確認。
三	11	○単元の学習を振り返る。	・本単元での活動したこと（行動を読み、動作化した）をまとめる。 ・言葉の力「人ぶつの気持ちをかんがえる」ができたかを振り返らせる。	[思考・判断・表現②] 行動観察・ノート ・話題に沿って話をしているか、友達の話と関連づけて話そうとしているかの確認。

7. 1年生の本時の展開

本時は、第1場面、おばあちゃんから手紙が届くところを取り扱い、チロの心情を想像する学習をおこなう。「チロのしたことをそうぞうしよう」というめあてを示した後、本文を音読させる。そうして、文の一部をカードにしたものを提示して、チロの行動・発言とチロ以外とに分類させる。そうして、チロの行動を記したカードをもとに、動作化をさせていく。そうすると、

（手紙をもらって）喜ぶチロ → 「ぼくは赤と青」というチロ → 「そんなことないよ。…」というチロ → 言い返すチロ → 心配になるチロ

という動作をすることが予想できる。この時、言い返すチロの動作に焦点を当てる。困った様子で、動作をする姿を取りあげて、「言い返したのなら困ってないのでは？」とゆさぶりの投げかけをする。それに対して、子どもは、「あわてていいかえしました」「ほんとうはとでもしんばいでした」という言葉を根拠に動作を説明する姿を期待している。ここで動作をさせることや、「あわてて」「とても」がない場合の動作化もさせ、比べさせることで、チロが本当に困っていたことを友だちの姿から想像できるようにする。そうして活動のまとめと振り返りをして本時の学習を終える。

8. 2年生の単元のねらい・学習材について

本単元の重点指導事項は、学習指導要領における〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」(1)オ「文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。」である。そこで、物語を読んで「もしも自分が登場人物だったら」という視点で感想を伝え合うという言語活動を設定した。これは、登場人物の行動や会話を読み取り、読み取ったことと自分の体験とを結び付けながら感想をもつという活動である。登場人物に対して「自分だったら」と自分の体験と結びつけることで、登場人物の気持ちを想像したり、登場人物に共感したりする。自らと重ね合わせて自分との共通点や相違点を見つけることで、感想をもつことができるようになる。そして、感想を交流する時間には、共通点や相違点に目を向けさせ、どうしてそう感じたのかを質問し合うようにすることで、どの言葉からそう感じたのか、理由や根拠となる叙述を考えることができるようになる。

本教材は、がまくんとかえるくんの2人の関係を描いた物語である。お手紙が欲しいがまくんと、がまくんのためにお手紙を書くかえるくんの微笑ましいやりとりを中心に書かれている。登場人物が少なく、会話を中心に物語が展開されるため、登場人物の行動や気持ちの変化を中心に、話のまとまりを捉えやすい構成となっている。2人の行動や会話に着目することで、2人の様子や気持ちを想像しながら読むことができる。また、差出人も内容も分かっているお手紙を待つ時間について考えることによって、2人の仲が深まる様子を読み取ることができる文章となっている。

9. 2年生の単元の目標

- (1) 文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。 [知識及び技能] (1)カ
- (2) 登場人物の行動を具体的に想像し、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想を持つことができる。 [思考力、判断力、表現力等] C(1)オ
- (3) 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。 [思考力、判断力、表現力等] B(1)ウ
- (4) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

10. 単元で取り上げる言語活動

物語を読んだ感想を書いて伝え合う。(思考力、判断力、表現力等 C(2)イ)

11. 2年生の単元の評価規準

知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文の中における主語と述語との関係に気付いている。(1)カ	①「読むこと」において、場面の様子に着目して、かえるくんの行動を具体的に想像し、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想を持っている。C(1)オ ②「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、「もし自分がかえるくんだったら」という題で感想を書き、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。B(1)ウ	①これまでに学習したことを振り返って学習課題を明確にし、学習の見通しを持って、進んで物語の人物の気持ちについて想像を広げ、物語を読んで感想を持つようとしている。

1 2. 2年生の単元と評価の計画（全 11 時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
一	1 ・ 2	○言葉の力から単元で学ぶべき事柄を確認する。 ○全文を読み、中心人物を確認する。	・学習のねらいと言語活動の内容を具体的に示し、学習の見通しをもつことができるようにする。 ・教師が範読や解説をおこない、読むことができない漢字や意味の分からない語句がないようにする。	
	3 ・ 4 本時 ・ 5 ・ 6 ・ 7	○物語の内容の大体をとらえて、1～5場面のかえるくんの行動を読み、自分の感想を友だちに伝える。 1場面 がまくんの思いを知って悲しむかえるくん。 2場面 がまくんへの手紙を書き、かたつむりくんに手紙を頼むかえるくん。 （本時） 3場面 がまくんを励ましながら手紙が届くのを待つかえるくん。 4場面 手紙のことをがまくんに話すかえるくん。 5場面 手紙が届いて喜ぶがまくんを見守るかえるくん。	・かえる君の行動を取りあげることができるように指導する。 ・出来事の順番を確認できるような文章の提示をする。 ・各場面で、すごいと思う、かえるくんの行動を選ばせて、その選んだ理由を説明させる。 ・選ばなかった行動の意味を問い、かえるくんの行動の多くに感想をもつことができるようにする。	[知識・技能①] <u>行動観察・発言</u> ・かえるくんが主語になっている文を選ぶことができているかの確認。 [思考・判断・表現①] <u>行動観察・発言</u> ・かえるくんの行動をとらえて、自分と比べた感想をもっているかの確認。
	8 ・ 9 ・ 10	○かえるくんとがまくんの気持ちを考え、感想を書く。 ○書いた感想を伝える。	・自分がかえるくんだったらという題で感想を書かせる。 ・自分の体験も紹介した感想を書いているものを感想文のモデルとして評価している姿を取りあげる。	[主体的に学習に取り組む態度①] <u>ノート</u> ・友達の感想を読んで、自分の感想が、自分と比べて読むことができているかの確認。
三	11	○単元の学習を振り返る。	・本単元での活動したこと（行動を読み、動作化をした）をまとめる。 ・言葉の力「自分と比べて読む」ができたかを振り返らせる。	[思考・判断・表現②] <u>ノート</u> ・自分がかえるくんだったらという題に即して感想を書いているかの確認。

1 3. 2年生の本時の展開

本時は、第2場面、かえるくんが、がまくんへの手紙を書き、かたつむりくんに手紙を届けるよう頼むところを取り扱い、その場面での感想を交流する学習をおこなう。「かえるくんのしたことで、すごいと思うことを説明しよう」というめあてを示した後、本文を音読させる。そうして、かえるくんの行動をカードにしたものを提示して、出来事の順に並べさせる。そうすると、

- ①家に帰ると言う。 → ②えんぴつと紙を見つける。 → ③紙に(何か)書く。 →
→④紙をふうとうに入れる。 → ⑤ふうとうに「がまがえるくんへ」と書く。 →
→⑥家から飛び出す。 → ⑦かたつむりくんにあう。
→⑧かたつむりくんに手紙をがまくんの家のゆうびんうけにいれることをたのむ。

このなかで、「感心したと思う行動」を選ばせる。おそらく手紙を書くことやかたつむりくんに頼むことが選ばれるのではないかと予想する。この時、「誰でも同じようにするのは？」とゆさぶる発問をする。そうして、「自分だったら」というキーワードができることを期待している。そうして活動のまとめと振り返りをして本時の学習を終える。

14. 本時の指導

(1) 1年の本時の目標 ○ チロの行動や発言から、不安な気持ちをもっていることを想像することができる。

(2) 1年の本時の評価規準

☞ 「読むこと」において、場面の様子に着目して、チロの行動を具体的に想像している。
C(1)エ (行動観察・発言)

(3) 2年の本時の目標 ○ かえるくんの行動について自分と比べながらの感想をもつことができる。

(4) 2年の本時の評価規準

☞ 「読むこと」において、場面の様子に着目して、かえるくんの行動を具体的に想像し、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想を持っている。
C(1)オ (行動観察・発言)

(5) 展開

直接指導：

間接指導：

○教師の働きかけ □評価 (評価方法)	学習活動 (1年生)	学習活動 (2年生)	○教師の働きかけ □評価 (評価方法)
<p>○めあてを示し話の流れを捉えるという本時のめあてを伝える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">チロのしたことをそうぞうしよう！</p> <p>○子どもの反応に応じて5つという数をヒントとして教える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">(手紙をもらって)喜ぶチロ → →「ぼくは赤と青」というチロ → →「そんなことないよ…」というチロ → →言い返すチロ →心配になるチロ</p> <p>○チロ、読み手、観察2人の4人一組での動作化をさせる。</p> <p>○チロが困っている姿を動作化したことを取りあげて、「言い返したのなら困ってないのでは？」とゆさぶりの投げかけをする。</p> <p>☞ 「読むこと」において、場面の様子に着目して、チロの行動を具体的に想像している。 C(1)エ (行動観察・</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">チロは、おばあさんがチョコキを自分にあむのを忘れていたかもしれないと本当に思ってしまったことが分かった。</p>	<p>1. 問題をつかむ</p> <p>2. 問題を解決する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一場面を司会の指示で音読する。 ・チロの行動・言葉を見つける。 <p>3. 本時の学習をまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一場面のチロの行動を動作化する。 ・「あわてていいかえました」「ほんとうはともしんばいでした」という言葉を根拠に動作を説明する。 ・「あわてて」「ほんとうは」がない場合の動作化もする。 ・チロのしたこと、話したことをとらえて、動作をしたことを確認する。 ・振り返りをする。 	<p>1. 問題をつかむ</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">かえるくんのしたことで、すごいと思うことを説明しよう！</p> <p>2. 問題を解決する</p> <p>○出来事の順にカードを並べる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">①家に帰ると言う。→ ②えんぴつと紙を見つける。→ ③紙に(何か)書く。→ ④紙をふうとうに入れる。→ ⑤ふうとうに「がまがえるくんへ」と書く。→ ⑥家から飛び出す。→ ⑦かたつむりにある。→ ⑧かたつむりに手紙をがまの家のゆうびんうけにいれることをたのむ。</p> <p>・感心したという出来事に名前付きのシールを貼る。</p> <p>・なぜ貼ったのか説明する。</p> <p>・かえるくんの行動の意味を改めて考えて感想をもつ。</p> <p>3. 本時の学習をまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時で学習したことをまとめる。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">自分だったらかえるくんのように行動できなかったかもしれない。そこまでできることがすごいと思う。…</p>	<p>○本時の本文 (第2場面) とカードを読む。</p> <p>○出来事の順にカードを並べることができたことを評価する。</p> <p>○誰でもできるのでは？と問いかける。</p> <p>○(子どもの反応に応じて)なぜかたつむりに頼んだのか、郵便受けに入れるように頼んだのかを尋ねる。</p> <p>☞ 「読むこと」において、場面の様子に着目して、かえるくんの行動を具体的に想像し、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想を持っている。 C(1)オ (行動観察・発言)</p>